

2023 年度

事業計画書

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)



東京都市大学グループ
学校法人 **五島育英会**

目次

■ I. はじめに

■ II. 第2期事業計画（2021年度～2025年度）の概要

1. 第2期事業方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2. 重点目標及び重点課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

■ III. 2023年度事業計画（東京都市大学グループ各校の計画）

1. 東京都市大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2. 東京都市大学付属中学校・高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
3. 東京都市大学等々力中学校・高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
4. 東京都市大学塩尻高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
5. 東京都市大学付属小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
6. 東京都市大学二子幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

■ IV. 東京都市大学グループ全体に関する計画

1. グループ間連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
2. 奨学金等による学生生徒支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
3. グループ広報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
4. 施設・設備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
5. 要員計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
6. 財務計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
7. 収益事業に関する計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
8. 内部監査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

■ 1. はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大の影響、ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化、エネルギーや食糧の高騰等の影響による物価高騰等、まさに「VUCA (Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性))」と言われる将来の予測が困難な時代となっている。

また、国内の出生数が統計開始以降初めて 80 万人を割る中、2023 年度は、政府より、「第 4 期教育振興基本計画 (2023 年度～2027 年度)」や、教育未来創造会議「コロナ後のグローバル社会を見据えた人への投資」の具現化に向けた第二次提言が示される予定であり、教育を取り巻く環境が大きく変わろうとしている。

このような社会環境の中、東京都市大学グループ各校が将来にわたって魅力的な学校であり続けるため、「都市大ブランド構築」に向けた長期事業計画 (2017 年度～2030 年度) を推進中であり、第 2 期事業計画 (2021 年度～2025 年度) が 2021 年度よりスタートした。第 2 期事業計画では、「①良質な教育の実践」「②グループ間連携の深化・拡大」「③教育環境の整備・充実」「④認知拡大を目的としたコミュニケーション活動の実践」を重点目標として掲げ、第 1 期において各学校で培われた良質な教育をベースとした個の力をさらに高めるとともに、その個性を尊重・活用し、互いに連携しあうことで生まれる強力な“グループ力”を育成・成長させることにより「都市大ブランド」の確立を目指していく。

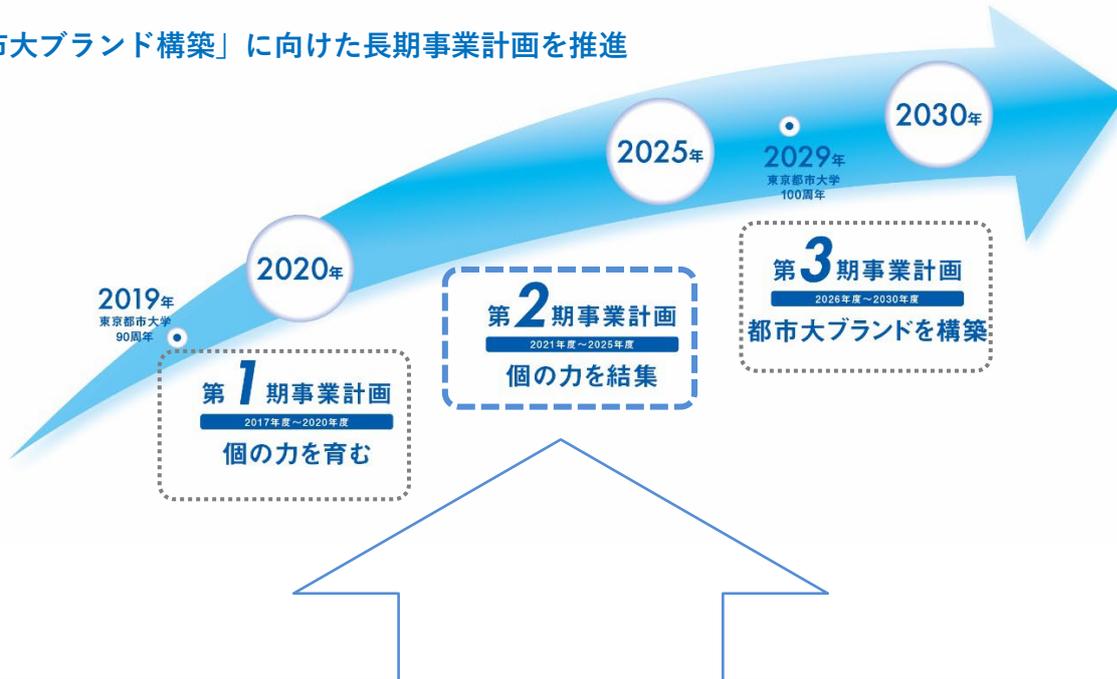
本事業計画は、第 2 期事業計画の 3 年目という位置付けである。

区 分	期 間	東京都市大学グループ 事業方針
第 1 期 事業計画	2017 年度 ～ 2020 年度	各学校が社会に対して圧倒的な存在感を示すことのできる「個の力」を育む。
第 2 期 事業計画	2021 年度 ～ 2025 年度	第 1 期において各学校で培われた良質な教育をベースとした個の力をさらに高めるとともに、その個性を尊重・活用し、互いに連携しあうことで生まれる強力な“グループ力”を育成・成長させることにより「都市大ブランド」の確立を目指す。
第 3 期 事業計画	2026 年度 ～ 2030 年度	東京都市大学グループとして社会に対して圧倒的な存在感を示すことのできる「都市大ブランド」を構築する。

■ II. 第2期事業計画（2021年度～2025年度）の概要

1. 第2期事業方針

「都市大ブランド構築」に向けた長期事業計画を推進

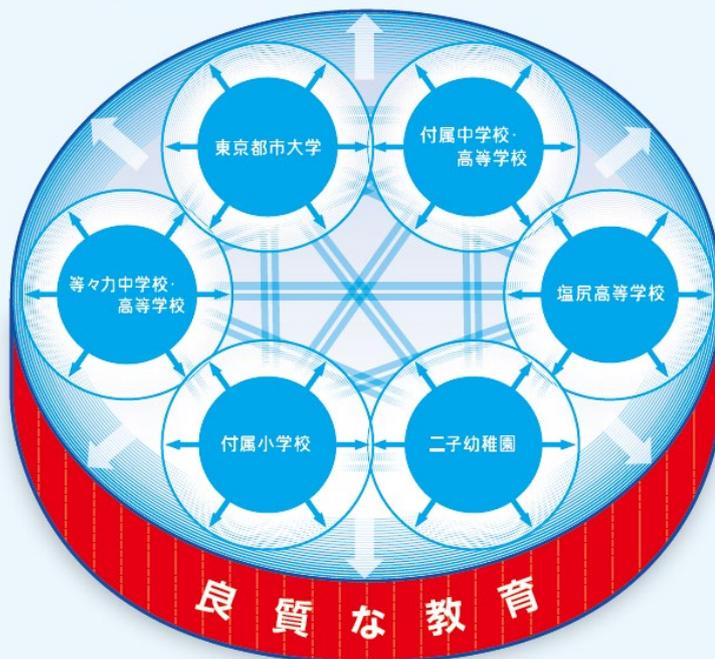


第2期事業方針

第1期において各学校で培われた良質な教育をベースとした個の力をさらに高めるとともに、その個性を尊重・活用し、互いに連携しあうことで生まれる強力な“グループ力”を育成・成長させることにより「都市大ブランド」の確立を目指す

第2期事業計画
(2021年度～2025年度)

“良質な教育”をベースとした
個の力を結集



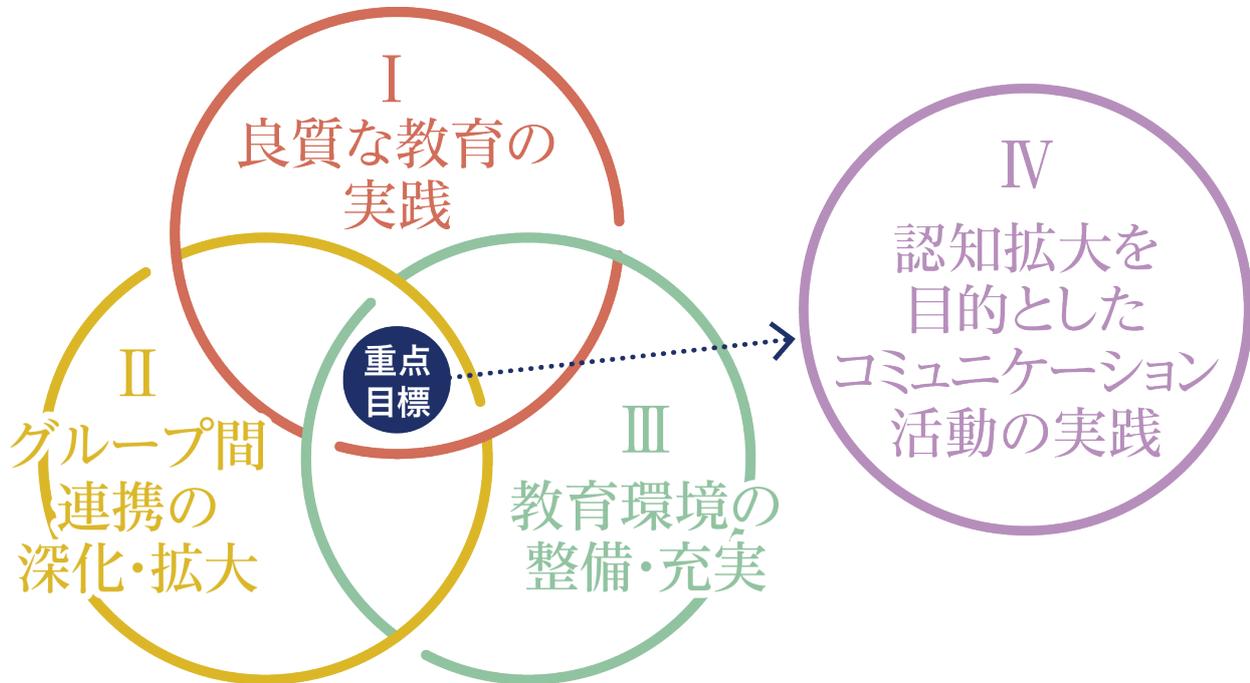
第3期事業計画
(2026年度～2030年度)

都市大
ブランド
を構築

2. 重点目標及び重点課題

第2期事業計画（2021年度～2025年度）

重点目標及び重点課題



重点目標	重点課題
I	① 魅力ある教育プログラムの開発・実践と研究活動の推進
	② サポート体制の充実
	③ 教職員の人材育成・資質向上
	④-1 ICTを利用した教育計画
	④-2 国際化計画
II	① 内部進学制度の深化・拡大
	② 各学校の連携強化
III	① 東京都市大学における施設再編
	② 学習環境の整備・充実
	③ 効率的業務の推進
IV	① インナーコミュニケーションの活性化
	② アウターコミュニケーションの拡充

■ III. 2023 年度事業計画（東京都市大学グループ各校の計画）

1. 東京都市大学

教育目標・研究目標※2021 年度～2025 年度期間

【教育目標】

公正・誠実さと自己研鑽力をもち、「都市」に集約されるような複合的課題に取り組むことができ、多種多様なボーダーを超えて新たな価値を見出すことで持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成する。

【研究目標】

国際都市東京を持続可能で魅力的な成熟都市とするため、総合研究所及び未来都市研究機構を中心とした「都市研究の都市大」プロジェクト事業の展開による本学研究ブランド力を向上させ、ワールドクラス・ユニバーシティ（WCU）を目指す。

I. 良質な教育の実践

① 魅力ある教育プログラムの開発・実践と研究活動の推進

■知識集約型社会を支える人材育成事業の推進（文部科学省 令和2 年度大学教育再生戦略推進費「知識集約型社会を支える人材育成事業」）

- ・当プログラムの1 期生が3 年生となるため、年次進行により科目を開設する。また、3 期生の受け入れを行う。
- ・「全学 FD・SD^{*1} フォーラム」にて、全学的な討論をするほか、2023 年度内に、当プログラムの中間報告等に関するシンポジウムを開催し、学内外からの知見を集め、2024 年度からの運用に活かす。
- ・先進事例の視察を行う。

■主体的な学修を促す教育方法の推進

- ・「SD PBL^{*2}(1)～(3)」までの実施を振り返り、その科目開講の趣旨に照らして、各学部学科でカリキュラムの内容を点検し、必要に応じて内容の見直し等を行う。

■「都市研究の都市大」プロジェクトの推進

- ・未来都市研究機構体制(研究ユニット)、及び事業活動内容の再検討、再構築を行う。

■研究者の研究力向上を目指した施策による本学研究ブランド力の向上

- ・総合研究所の重点推進研究「7 研究ユニット」の研究事業の大型化（研究センター化）を推進する。

■外部資金の戦略的獲得

- ・Research Administration Center(RAC)活動強化による研究支援を行う。
- ・特色ある研究グループ、研究テーマの発掘と外部研究資金への申請・応募支援を行う。

■世田谷プラットフォーム^{*3}の推進

- ・世田谷プラットフォームにおける中長期計画の内容及びプロセス等に基づき、高等教育・実務教育の提供や、地域の課題解決のための研究等、各事業計画の取り組みを実施する。

■新学部開設

- ・分析力と創造力を兼ね備えたイノベーション人材を育成するため、横浜キャンパスに「デザイン・データ科学部 デザイン・データ科学科」を開設する。

② サポート体制の充実

■教育の質保証を中心とした教学システムの更新及び連携

- ・教育施策と連動したシステムの導入及び改修を行う。

③ 教職員の人材育成・資質向上

■FD 活動による教育システム等の開発

- ・「教育施策に関する基本方針 2020」に基づき、教育開発機構 FD 推進センター主催による学生代表者による FD や、授業公開を含む FD を計画的に実施する。
- ・新任教員研修も兼ねた教職協働の「FD・SD ワークショップ」、全学専任教職員による合同研修の「全学 FD・SD フォーラム」も開催し、協定を締結している大学の教職員も交えた意見交換や交流を行う。
- ・教育開発機構の各室・センターとも連携し、時宜を得た FD 活動を展開する。

④-1 ICT を利用した教育計画

■教育の質保証を中心とした ICT の整備（授業収録、配信システム等）

- ・コロナ禍に導入したオンライン・ハイブリッド授業サービスを改修・強化し、録画した授業動画をアーカイブして復習用や学習支援用として活用する。

④-2 国際化計画

■アウトバウンドの推進：海外留学・海外研修等の参加を目的とした学生の海外派遣

- ・TAP^{※4}を実施する。
- ・AOFUA^{※5}にて、交換留学生の送り出しや、サマーキャンプを行う。
- ・学部別プログラムを実施する。
- ・短期海外研修プログラムを実施する。

■インバウンドの推進：大学院生を中心に外国人留学生の受け入れ拡大

- ・大学院留学生入試改革を行う。
- ・外国人留学生のサポート・インフラの整備（日本語講座の開講等）を行う。
- ・外国人留学生（短期研修・学部別プログラムのインターン）の受け入れを行う。

II. グループ間連携の深化・拡大 → P.12「グループ間連携」を参照

① 各学校の連携強化

■実効的な高大連携の推進

- ・本学と付属3高校間で高大連携事業のひとつとして実施している「単位認定制度」について、授業に参加しやすい体制づくりを実施する。
- ・付属の各高校からの入学予定者に対して、本学への理解をより深めてもらうことを目的として、収録授業の公開等の施策を検討し実行する。

III. 教育環境の整備・充実

① 東京都市大学における施設再編

■施設の計画的な更新（将来の教育研究を見据えたキャンパス再整備の推進）

- ・新10号館2期建設工事による、大学運営のさらなる効率化と教育研究上のシナジー創出を目的とした東京都市大学キャンパス再整備事業を着実に実行する。

② 学習環境の整備・充実

■情報インフラ（ネットワーク、Wi-Fi）環境の整備充実

- ・世田谷キャンパスのWi-Fiを増強し、キャンパス全域に拡充する。
- ・教育研究用コンピュータシステムのクラウド化に伴い、インターネット回線を10Gbpsから40Gbpsに増強し、クラウドのさまざまなサービスとその円滑な利用環境を提供する。

③ 効率的業務の推進

■東京都市大学グループ全体での「アカウントの統一」「情報セキュリティの一元化」等、ネットワーク環境の統合化による業務効率の向上

- ・東京都市大学グループ全体でシステムを統合・一元化し、利便性の向上と業務の効率化を図る。
- ・ハード及びソフト両面でのセキュリティ対策に加え、多要素認証等のさまざまな対策を組み合わせるサイバー攻撃に対処し、事業継続性を確保する。

※1 FD…Faculty Development の略称。教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みのこと

SD…Staff Development の略称。職員の職能開発のこと

※2 SD PBL…Sustainable Development Project organized Problem Based Learning の略称。持続可能な社会の発展に資する人材育成という本学の教育目標のためのオリジナルなPBL

※3 世田谷プラットフォーム…世田谷区内に所在する複数大学（国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、東京農業大学、東京都市大学）、世田谷区、東急株式会社等の区内産業界が連携し、地域における高等教育・産業界の活性化、さらには世田谷区全体の発展に寄与することを目的とする世田谷プラットフォームの中長期計画については、下記ページ（世田谷プラットフォーム Web サイト内）に掲載

<https://appdl.fleekdrive.com/pl/GQjLXJjImDaZjXaMFTMRkPQjLQbZPcu>

※4 TAP…TOKYO CITY UNIVERSITY AUSTRALIA PROGRAM の略称。留学前100日間の英語講座と4ヵ月間のオーストラリア留学を組み合わせた本学独自の留学プログラム

※5 AOFUA…ASIA-OCEANIA FIVE UNIVERSITIES ALLIANCE の略称。デラサール大学（フィリピン）、エディスコワン大学（オーストラリア）、タマサート大学シントーン国際工学部（タイ）、マレーシア日本国際工科院（マレーシア）と本学の5大学で構成された連合体

2. 東京都市大学付属中学校・高等学校

教育目標※2021年度～2025年度期間

- (1)東京都市大学グループの一員として、校訓に掲げる「誠実・遵法・自主・協調」の精神により、健全な精神と豊かな教養を身につけ、国際社会で活躍する有為な人材を育成する。
- (2)豊富な体験に裏打ちされた確かな学力を身につけ、やがて直面する大学進学を確かなものとし、さらに、その先の社会人・職業人として活躍できる豊かな社会性・自主性・道徳心を備えた人材を育成する。

I. 良質な教育の実践

① 魅力ある教育プログラムの開発・実践

- 情操教育・キャリア教育・生徒の自治活動を充実させ、社会で活躍できる自律と自立を身に付け、豊かな社会性・自主性・道徳心を備えた人材の育成
- ・体験学習を通じ豊かな人間性を涵養するために、すべての宿泊行事、学校行事を滞りなく行う。

② サポート体制の充実

- 各教科担当者による放課後指導の充実
- ・放課後の英語、数学基礎講座に加えて、英検®対策講座を実施していく。また、夏期講習、冬期講習、春期講習も実施する。特に高校2年生、高校3年生は英語、数学、国語に加えて理科、社会の受験教科についても講座を開講していく。
- 外部講師及びインターネット講座による放課後の学習指導体制の強化
- ・外部講師による医学部対策講座を継続し、さらなる受験指導の強化を図る。

③ 教職員の人材育成・資質向上

- 教員の指導力強化を目的とした校内外における研修の充実
- ・教員向けの夏期研修会を実施する。若手教員を中心とする東京大学入試研究会で、入試対応研究に加えて10年後やその先を見据えた学校作りを議論する。
- ・教科指導研修として、若手教員を中心に教員対象の予備校講座に参加する。

④-1 ICT を利用した教育計画

- 1人1台のICT端末を用いた双方向授業の実践
- ・全校生徒で1人1台のICT端末の導入を行う。

④-2 国際化計画

- 英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）の向上
- ・新型コロナウイルス感染拡大により中止していた海外旅行行事の完全実施を目指す。但し、高1北米研修旅行については、旅行代金の高騰、不安定な海外情勢、アメリカ国内の社会不安等の理由を鑑み、海外研修旅行の2つの柱（ホームステイ・大学での研修）はそのままに行き先をオーストラリアに変更の予定である。

II. グループ間連携の深化・拡大 → P.12「グループ間連携」を参照

① 各学校の連携強化

- 付属3校学校間連携サミット（付属3校：東京都市大学付属中学校・高等学校、東京都市大学等々力中学校・高等学校、東京都市大学塩尻高等学校）の継続的な実施を通じた生徒会交流の推進
- ・付属3校間のサミットを開催する。教育活動、部活動、行事・生徒会活動等の分野から3校合同で取り組む。

III. 教育環境の整備・充実

① 学習環境の整備・充実

- 学習効果を高めることを目的としたICT環境の整備
- ・2023年度以降、全校生徒へのICT端末の導入に伴い、ICT教育支援員を採用し、スムーズな運営を図る。

② 効率的業務の推進

- 外部指導員導入の検討
- ・一部の部活動について外部指導員を導入・検証し、次年度の計画を策定する。

3. 東京都市大学等々力中学校・高等学校

教育目標※2021年度～2025年度期間

- (1)等々力中高改革の最後の仕上げと新たな大改革への準備という意識を明確に持って職務に当たる。
- (2)五島慶太先生の熱誠とノブレス・オブリージュの教育を個々の教職員が教育活動全般に広く活用できるようにする。
- (3)アクティブ・ラーニング（AL）活動はいわゆる「TOK」^{※1}的な活動を ICT と関連付けて実践できるようにする新しい学習支援システムを構築する。また、教育支援アプリの熟達を図る。
- (4)インターナショナル校や海外の教育機関などとも積極的に交流の方法を模索する。
- (5)真の国際教育は「良き日本人の育成」であり、国語や伝統文化の教育の充実に向け具体的なプログラムを実践する。
- (6)学校の評価を盤石にすると同時に海外大学進学に向けた具体的な取り組みを実施する。
- (7)良き教育は良き教員の育成であり、そのための環境の改善と研修の充実を具体的に進める。

I. 良質な教育の実践

① 魅力ある教育プログラムの開発・実践

- 自ら学び、考え、そして自律的に行動できる（メタ認知力の高い）生徒を育成こそ教育の目標という認識の共有
- ・第4回 ICT フェアの開催に向けた実施形態を担当部署で検討する。
- ・全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）に参加し、AJEMUN での受賞、全日本大会の本選出場を目指す。

② サポート体制の充実

- 国公立大学進学を基本にした進学指導の強化で国公立大学に強い学校ブランドの構築
- ・インディゴ^{※2}研修を行う。
- ・Web 学習システムにおける英語 4 技能（聞く・話す・読む・書く）強化等のアプリケーション変更を検討する。

③ 教職員の人材育成・資質向上

- 活力に満ちた教員集団の育成
- ・第4回 ICT フェアによって、等々力 ICT 活用モデルの確実な定着を目指す。

④-1 ICT を利用した教育計画

- 教育支援クラウドシステムの活用
- ・Web 学習システムの活用、到達度テストの有効活用を行う。

④-2 国際化計画

- GL（Global Leaders）クラス^{※3}と国際教育の充実
- ・キルピントングラマースクール（オーストラリア）との2校間交流を検討する。
- ・ユネスコスクール認定校として、ベルギーの高校とアートマイル国際協働学習^{※4}プロジェクトを実施する。
- ・新しい帰国生教育プログラムを模索し、実施に移していく。

II. グループ間連携の深化・拡大 → P.12「グループ間連携」を参照

① 各学校の連携強化

- 研究論文指導における東京都市大学との連携の確立
- ・東京都市大学学生をメンターとして研究論文作成を行う。

- GL（Global Leaders）講座^{※5}における東京都市大学卒の創設
- ・東京都市大学教員による GL（Global Leaders）講座を実施する。

- 部活動指導における東京都市大学学生との連携
- ・東京都市大学学生による、弓道部及び男子バスケットボール部の指導を継続し、他の部活動への波及を検討する。

- 東京都市大学等々力中学校・高等学校と東京都市大学二子幼稚園における連携の再開・維持
- ・本校ネイティブ教員を東京都市大学二子幼稚園の英語活動に派遣する。
- ・東京都市大学二子幼稚園にて、本校理科部による「科学体験教室」を実施する。

- 付属3校学校間連携サミット（付属3校：東京都市大学付属中学校・高等学校、東京都市大学等々力中学校・高等学校、東京都市大学塩尻高等学校）の継続的な実施を通じた生徒会交流の推進
- ・付属3校間のサミットを開催する。教育活動、部活動、行事・生徒会活動等の分野から3校合同で取り組む。

III. 教育環境の整備・充実

① 学習環境の整備・充実

- 教育の質的向上及び生徒募集効果向上を目的としてハード及びソフト両面における新しい発想に基づいた環境の創出
- ・校舎等の拡充・再整備計画を多くの教員が参画するかたちで、次代に向けた等々力中学校・高等学校の発展のイメージを共有する。

② 効率的業務の推進

- 業務分掌の整理
- ・現在導入している教務支援員を継続して配置する。

※1 TOK（Theory of Knowledge<知の理論>）…反転授業の手法を取り入れたアウトプット型授業

※2 インディゴ…シンガポールにある海外大学進学専門学校

※3 GL（Global Leaders）クラス…おもに英語力の高い生徒（帰国生も含む）で編成される英語アドバンスクラス

※4 アートマイル国際協働学習…世界が今直面している課題について海外の相手と対話的・協働的に学び合うプロジェクトベースの学習

※5 GL（Global Leaders）講座…あらゆる分野の知的好奇心を満足させ、リベラルアーツ（教養）を高める講座

4. 東京都市大学塩尻高等学校

教育目標※2021年度～2025年度期間

(1)文武両道の地域密着型高校の実現

- ・塩尻市（中信地区）唯一の普通科進学校＆普通科スポーツ強豪校としてのステイタスを築き、「塩尻（中信地区）の英才は都市大塩尻高が育てる」学校づくり
- ・信州大学との日常的な高大連携をとり信大進学を実現（徹底的な信州大学入学試験対策）
- ・強化部を中心に、個人競技へのサポートも厚くして、部活・個人の全国大会出場

(2)先進的な首都圏教育（ICT教育等）の推進

- ・学習システムや学校行事（企画・運営）等を導入して他校と差別化を図る。首都圏の文化を発信する学校づくり
- ・東京都市大学との高大連携、グループ各校との連携
- ・旧帝大等への進学

(3)グローバル教育・探究活動の充実

- ・「国際交流センター」を設置し、留学生対応（海外語学研修、短期・長期留学）及び各プログラム（帰国子女の受入、海外大学への進学、発信型「交渉できる」英語教育）の充実
- ・探究教育の発展（国内での調査・研究を進展させ海外の学生との活動）

I. 良質な教育の実践

① 魅力ある教育プログラムの開発・実践

■学習支援センターの充実

- ・本校教職員の他、外部講師等による全学年の放課後進学講座を通年で開講する。また、担任教員が朝テストを通年で実施する。
- ・学習支援センターを、平日は引き続き21時まで開放する。

■探究コースの発展・進化

- ・探究教育関連の多数の研究会に参加、最新の探究教育の研究を行う。
- ・塩尻市との地域連携型の探究教育をさらに発展させ、地域に帰属意識を持った高校生の育成を図る。

② サポート体制の充実

■【部活動（クラブ活動）のさらなる活性化】運動系の強化部及び準強化部の全国大会出場（全国で上位入賞）

- ・男子寮の運用を開始する。

■【高大連携】信州大学をはじめとした国公立大学への進学者増を目指し、信州大学との高大連携事業（探究活動や信州大学教授による講演等）の継続

- ・信州大学学生による学力向上支援チューターを平日に学習支援センターと教室に配置し、より充実した支援を行う。

③ 教職員の人材育成・資質向上

■教職員研修の継続実施

- ・新たに外部機関を活用した教員のスキルアップ研修会を検討する。

④-1 ICTを利用した教育計画

■大学受験対策に特化した動画配信講座の受講を目的としたICT環境の整備

- ・受験対応や学力向上を目指し、個人のタブレット端末を活用するAI教材と、成績上位者に対するオンライン・チューター指導を導入する。
- ・5教科を中心に研究授業を行い、すべての教員がタブレット端末を用いた授業ができるようにシラバスを作成する。

④-2 国際化計画

■さらなる国際化教育の推進

- ・直接交流を主とした既存のプログラム（English Café、イングリッシュキャンプ、フィリピン語学研修、オンライン英会話）を継続して実施する。

II. グループ間連携の深化・拡大 → P.12「グループ間連携」を参照

① 各学校の連携強化

■探究コースと東京都市大学との高大連携の継続

- ・東京都市大学教員によるオンライン特別講義（1年生対象）、研究指導（2、3年生対象）等を実施する。

■付属進学制度に基づく、東京都市大学への進学

- ・東京都市大学進学希望者に対して、遠隔授業を通して大学の授業を早めに知ることにより、学習意欲を持つ質の高い生徒を輩出する。

■本校と東京都市大学二子幼稚園における連携の再開・維持

- ・東京都市大学二子幼稚園へ職場体験学習による生徒送り出しの定例化を推進する。

■付属3校学校間連携サミット（付属3校：東京都市大学付属中学校・高等学校、東京都市大学等々力中学校・高等学校、東京都市大学塩尻高等学校）の継続的な実施を通じた生徒会交流の推進

- ・付属3校間のサミットを開催する。教育活動、部活動、行事・生徒会活動等の分野から3校合同で取り組む。

III. 教育環境の整備・充実

① 学習環境の整備・充実

■教室環境の整備・充実、男子寮の整備

- ・男子寮の運用を開始し、遠隔地からの入学希望者を広く受け入れるための態勢を整備する。また、入学者数の状況を鑑み、教室の整備（増設・改修・整理）を実施する。

② 効率的業務の推進

■業務の分業化・スリム化

- ・新教育課程の導入に向け適切な授業開始時間や、授業時間の検証と教員の持ち時間の再検討を行う。

5. 東京都市大学附属小学校

教育目標※2021年度～2025年度期間

東京都市大学グループ校として充実した教育環境の整備と教育プログラムにより、<高い学力>と<豊かな心>を教育の二本の柱に据え、「自主的・主体的に考え行動」「楽しい生活と凛とした気高さをあわせもち世界に通用するリーダー的存在」の育成とともに、都内有数の名門私立小学校への飛躍を目指す。

I. 良質な教育の実践

① 魅力ある教育プログラムの開発・実践

■「二本柱の教育」（豊かな心・高い学力）の堅持

- ・本校の「二本柱の教育」の実践のため、全教員がICT機器の効果的な利用を行い、質の高い授業を実施する。
- ・低学年の学習への関心（探究心）を芽生えさせ中学年、高学年の学習に結び付ける新たな体験の授業を実施する。
- ・児童の成長に欠かすことのできない様々な行事やプログラム（食育プログラム、科学体験教室等）の見直しや新規導入を行う。

② サポート体制の充実

■ 中学受験合格実績の向上

- ・年々高まる本校への期待に応えられるように、授業力に加え、コミュニケーションスキルを高め、保護者や児童との良好な関係を築いていく。
- ・東京都市大学附属中学校・東京都市大学等々力中学校の進学希望者へのサポートを充実させる。

③ 教職員の人材育成・資質向上

■ より充実かつ強固な英語教育の確立

- ・全学年の児童により高いコミュニケーションスキルを身に付けさせるため、外国人教員の充実を図るよう検討を行う。
- ・東京都市大学附属中学校・高等学校、東京都市大学等々力中学校・高等学校の協力を得て、中学受験についての指導を実施する。

④-1 ICTを利用した教育計画

■ タブレット端末を活用した授業の実施

- ・情報に関するモラルの向上と、より先進的な活用ができるように定期的な研修を継続実施し、全教員の指導力向上を図る。
- ・授業での活用を目指し、教育支援アプリに関する最新動向の研究及び研修を実施する。
- ・安心安全な教育環境の維持のため、ファイルサーバーの最適な設置を行う。

④-2 国際化計画

■ 異文化体験学習の継続実施

- ・新型コロナウイルス感染拡大により中止していた「オーストラリア語学研修」の再開を目指す。
- ・「イングリッシュキャンプイン長崎」の内容をより充実させる。

II. グループ間連携の深化・拡大 → P.12「グループ間連携」を参照

① 各学校の連携強化

■ 本校と東京都市大学における連携の増加

- ・東京都市大学学生による「科学体験教室」等の教育プログラムを導入する。
- ・東京都市大学ラグビー部による「タグラグビー」指導や東京都市大学人間科学部による「読み聞かせ」等の再開を検討する。

■ 本校と東京都市大学二子幼稚園における連携の再開・維持

- ・東京都市大学二子幼稚園園児対象の「英語であそぼう」プログラムの継続実施と、本校体験授業への園児参加等、新たな連携事業を検討する。

III. 教育環境の整備・充実

① 学習環境の整備・充実

■ アリーナシアターの設置

- ・アリーナシアターを整備し、学校行事や保護者会、児童募集のための学校説明会に有効活用する。

② 効率的業務の推進

■ 校務分掌における教員の適材配置

- ・教員の適性を活かしながら分掌業務の資質をより向上させるために、適切な人員配置を行う。

6. 東京都市大学二子幼稚園

教育目標※2021年度～2025年度期間

- (1) (健康) たくましい子ども
- (2) (知性) 観察力と判断力にすぐれ、協力しあって遊ぶ子ども
- (3) (風格) 意欲的に 志たかく 最後までやりとげる子ども
- (4) (自立) 自分の思いをはっきり伝え、人の話をよく聞く子ども
- (5) (感動と畏敬) 正しいこと、美しいもの、すぐれたものに感動し素直に受け入れられる子ども

I. 良質な教育の実践

① 魅力ある教育プログラムの開発・実践

■課外活動（課外あそび）の充実

- ・年長保育室を使用した「絵画教室」「習字教室」実施を目指し、実現に向けた計画を立てる。

■たくましい体づくりの推進

- ・正課運動あそびの検証を踏まえ、「体づくり」教育プログラムの充実を図る。
- ・虫歯罹患率の経年変化調査及び歯磨き教室を継続実施する。

② サポート体制の充実

■預かり保育の拡充・充実

- ・平日の正課保育後に預かり保育を実施する。
- ・預かり保育を行う保育室の机や備品を計画的に整備する。

③ 教職員の人材育成・資質向上

■教員研修の充実

- ・東京都市大学グループ初等中等学校（東京都市大学附属中学校・高等学校、東京都市大学等々力中学校・高等学校、東京都市大学塩尻高等学校、東京都市大学附属小学校）への視察研修を行う。

④-1 ICT を利用した教育計画

■ICTを活用した新しい「課題あそび」の研究開発及び実践

- ・新たなICT教育教材の導入を調査、検討する。
- ・ICT教育教材を活用した発表活動を実践する。
- ・ICT教育教材を活用するための教員研修を実施する。

④-2 国際化計画

■卒園時に色や動物等の簡単な英単語の理解や英語による日常の簡単な挨拶の習得

- ・英語による会話形式の発表会を行う。
- ・幼児英語教育システムに登場する外国人講師によるレッスンを実施する。

II. グループ間連携の深化・拡大 → P.12「グループ間連携」を参照

① 各学校の連携強化

■幼大連携・学校間連携の充実

- ・延べ100人の東京都市大学学生サポーターを受け入れる。
- ・東京都市大学等々力中学校・高等学校及び東京都市大学附属小学校のネイティブ教員による英語活動を実施する。
- ・東京都市大学等々力中学校・高等学校理科部による「科学体験教室」を実施する。
- ・東京都市大学塩尻高等学校生徒の職場体験学習の計画・実施・検証を行い、職場体験学習生徒受け入れの定例化を推進する。
- ・東京都市大学附属小学校への内部進学制度説明会を年長児、年中児の保護者を対象として実施する。

III. 教育環境の整備・充実

① 学習環境の整備・充実

■安心・安全な教育環境の整備

- ・ウッドデッキ張替え等の修繕、整備を実施する。

② 効率的業務の推進

■ICTスキルの向上

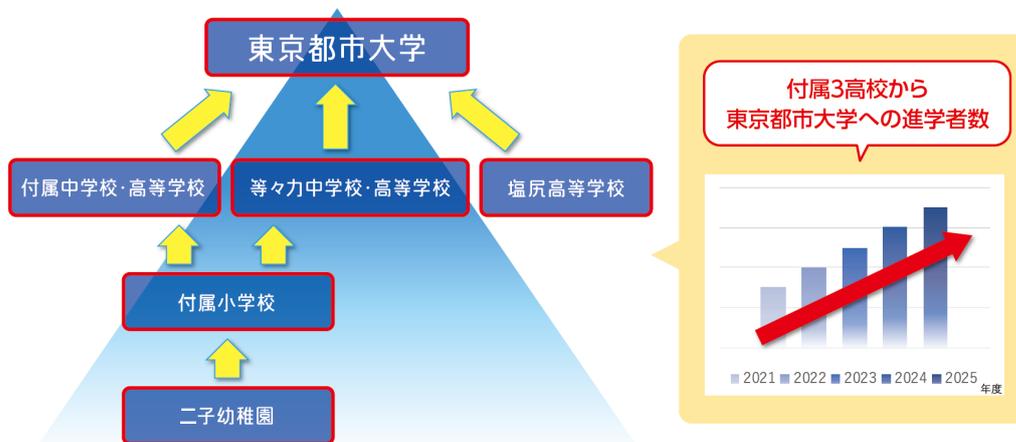
- ・入園試験Webシステム、園務支援システムの利用についての検証結果に基づき、分析、改善し継続使用する。

■ IV. 東京都市大学グループ全体に関する計画

1. グループ間連携

(1) 内部進学

東京都市大学グループは幼稚園から大学までつながった総合学園であり、特に付属3高校からの東京都市大学への進学者数の増加を目指す。



(2) 学校間連携



東京都市大学塩尻高等学校「探究コース」
東京都市大学との高大連携プログラムによる特別講義



東京都市大学等々力中学校・高等学校理科部による
東京都市大学二子幼稚園での「科学体験教室」

東京都市大学と付属3高校間の円滑な接続を図る「付属進学制度」や「単位認定制度」をはじめ、大学教員による出張授業や遠隔授業、東京都市大学塩尻高校「探究コース」における大学との協働プログラム等の「高大連携」の各取組みを充実する。また、付属3校間における運動部・文化部の部活動連携や各校の生徒会役員が一堂に会して意見交換等を行う学校間サミット等、グループメリットを活かした学校間連携を充実させることにより、生徒が相互に切磋琢磨しながら自己の資質・能力をさらに伸長できるようにする。併せて、グループ校教職員同士も連携しながら研鑽を深められるよう、学校教育を取り巻く諸課題の解決や新学習指導要領に基づく教育の充実を図るための研修・情報交換会等を積極的に実施する。さらに、東京都市大学と東京都市大学二子幼稚園との「幼大連携」については、東京都市大学人間科学部の学生が二子幼稚園のイベント等でサポートを行いながら運営手法等を学ぶ「学生サポーター制度」の実施等により一層緊密な連携を図る。これらの取組みにより、「都市大ブランド」の確立に向けて東京都市大学グループとしての総合力を高めていく。

2. 奨学金等による学生生徒支援

東京都市大学 オーストラリアプログラム



【部活動への奨励】

「五島育英基金」や「曾祢奨学基金」等の各種奨学基金により、東京都市大学グループ各校に在籍する学生・生徒等の奨学、顕彰及び各学校の特色ある教育活動や部活動の奨励等を行い、有為な人材の育成、教育研究の振興及びグローバル化の進展を図る。併せて、前年度に引き続き、既存の奨学基金の有効活用やその効果の検証を行い、より効果的な奨学金制度を目指し運用する。

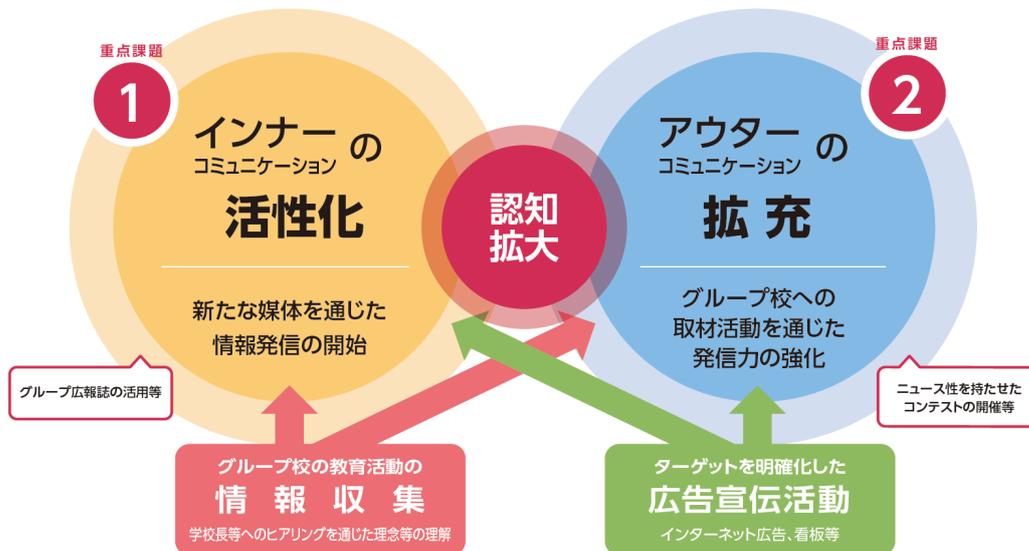
また、東京都市大学グループ各校が展開する魅力と特色ある教育活動を支援するため、「五島育英会夢に翼を奨学金」を活用し、東京都市大学留学プログラムや海外インターンシップ等のグローバル人材育成事業への支援、東京都市大学グループ全体の社会的価値向上への貢献が期待できる部活動の奨励等を積極的に行う。

さらに、2019年度から東京都市大学大学院において開始した「五島育英会東急グループ奨学金」により、国際社会において先導的役割を果たす人材の育成を行う。

加えて、家計の急変により、学費の納付が困難な学生・生徒等への経済的支援を継続して行う。

3. グループ広報

「都市大ブランド」の認知拡大を目的としたコミュニケーション活動（パブリシティ、広告宣伝等）を引き続き行うため、広告宣伝（看板、インターネット等）、広報（PR会社と協働したパブリシティ活動）、調査分析（各学校ウェブサイトのアクセス解析）等を実施していく。



4. 施設・設備計画



新 10 号館 第 2 期工事完成イメージ



新 10 号館 2022 年第 1 期工事完了

東京都市大学ではキャンパス再整備事業における世田谷キャンパス内の既存校舎の解体工事が進行中であり、2023 年度においては新 10 号館 2 期工事に着手する。

等々力キャンパス跡地は東京都市大学等々力中学校・高等学校の施設整備計画用地として旧 1 号館・2 号館の解体工事が進行中であり、跡地利用について検討中である。また、総合研究所移転後の跡地については収益事業用途として活用する方向にて検討中である。

その他の学校については既存施設の適切な維持管理に努めるとともに、ICT 環境の整備を進めていく。

5. 要員計画

(1) 教職員数

2023 年度の人員を以下のとおりとする。

[教育部門]				単位：人
	専任職員	兼務教員	合計	
教育職員	527	500	1,027	
技術職員	34	—	34	
事務職員	192	—	192	
合 計	753	500	1,253	

※専任職員の前年比…教育職：21 人増、技術職：4 人減、事務職：5 人増

[収益部門]		単位：人
	職員	
法人本部収益事業部収益事業課	2	
東急自動車学校	97	
合 計	99	

※職員の前年比…収益事業課 1 人減、東急自動車学校 8 人増

(2) 人材育成

事務職員においては、挑戦力・推進力・行動力・協調性等のさらなる育成と東京都市大学グループの将来を担う「自律的行動人材」の育成を中心とした研修を実施する。

初等中等教育学校の教員に対しては、個々の教員の授業力・指導力等、資質向上に向けた体系的な階層別研修を実施し、個々の教育スキルのさらなる向上に取り組む。

6. 財務計画

2023年度事業活動収支予算は、教育部門と収益部門を合わせて経常収入 225 億 6 百万円、一方経常支出は前述の諸施策を反映し、特に東京都市大学キャンパス再整備事業及び東京都市大学等々力中学校・高等学校施設整備計画等にかかる特別な経費支出 12 億 25 百万円により増加し 227 億 89 百万円となる。経常収支差額は 2 億 83 百万円の支出超過となるが、主に前述の特殊要因によるものである。基本金組入前当年度収支差額は 6 億 72 百万円の支出超過となり、基本金 17 億 59 百万円を組入後の当年度収支差額は 24 億 31 百万円の支出超過となる。

資金収支予算は、東京都市大学キャンパス再整備事業及び東京都市大学等々力中学校・高等学校施設整備計画等に 23 億 98 百万円等の大規模な施設設備投資により当年度支出合計 322 億 7 百万円となる。当年度収入合計は施設拡充引当特定資産を 14 億円取崩し 322 億 27 百万円、支払資金の増減額は 19 百万円の収入超過となる。



事業活動 収支予算

経常収入	225.0億円
経常収支差額	-2.8億円
基本金組入前当年度収支差額	-6.7億円
当年度収支差額	-24.3億円



資金収支 予算

当年度収入合計	322.2億円
(うち施設拡充引当特定資産取崩収入	14.0億円)
当年度支出合計	322.0億円
支払資金の増減額	0.1億円

7. 収益事業に関する計画



【五島育英会ビル】



【東急自動車学校】

(1) 不動産賃貸

五島育英会ビル（東京都渋谷区道玄坂）は、適正な施設改修の実施及びテナント各社とのコミュニケーション強化により、安全・快適なオフィス環境の維持・向上を実現してテナント満足度を高めるとともに、渋谷駅に近いという立地条件も活かして新規テナント確保につなげ、稼働状態の向上を目標とする。

(2) 東急自動車学校

多彩な車種の教習や講習を展開する「総合型教習所」としての強みを活かし、これからの時代を捉えるとともに地域の交通安全センターとしての取組みを展開することにより、安定的な利益計上の継続を図る。

営業施策として、主力顧客である大学生の集客に向けた外部機関とのネットワーク強化、高齢者講習の集客拡大、法人営業強化による企業研修の拡充等を図る。また、唐木田移転後 10 年超を経過したことに対応して、教習環境の維持・向上を図った施設・設備の整備計画を策定の上実行する。

8. 内部監査

内部監査規程に基づき、業務運営及び会計処理の適法性及び妥当性を公正かつ客観的に検証・評価し、監査結果に基づく助言及び提言を行うことにより、法人の健全かつ円滑な運営に資することを目的とし、監査を実施する。



 **東京都市大学グループ**
 **学校法人五島育英会**

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-10-7 五島育英会ビル 8 階

本法人の情報は下記の Web サイトでもご覧いただけます。

本法人 Web サイト

<https://www.goto-ikuei.ac.jp/>

事業計画書・報告書 Web サイト

<https://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/20data/plan.html>

無断転載を禁止します。